

平成29年教育委員会第1回定例会会議録

開会日時 平成29年 1月16日 午前 10時00分

閉会日時 同 上 午前 10時50分

場 所 教育委員会室

出席委員 教育長 塩澤 雄一
同職務代理者 日高 芳一
委員 齋藤 初夫
委員 塚本 亨
委員 天宮 久嘉
委員 大里 豊子

議場出席委員

・教育次長	坂井 保義	・学校教育担当部長	平沢 安正
・庶務課長	杉立 敏也	・学校施設課長	青木 克史
・学校施設整備担当課長	長南 幸紀	・学務課長	鈴木 雄祐
・指導室長	中川 久亨	・統括指導主事	加藤 憲司
・統括指導主事	塩尻 浩	・地域教育課長	山崎 淳
・生涯学習課長	小曾根 豊	・生涯スポーツ課長	倉地 儀雄
・中央図書館長	鈴木 誠		

書 記

・企画係長 富澤 章文

開会宣言 教育長 塩澤 雄一 午前 10時00分 開会を宣する。

署名委員 教育長 塩澤 雄一 委員 日高 芳一 委員 齋藤 初夫
以上の委員3名を指定する。

議事日程 別紙のとおり

○**教育長** それでは出席委員が定足数に達しておりますので、平成29年教育委員会第1回定例会を開催いたします。

審議に先立ちまして新たな教育委員会委員として、齋藤初夫氏が区長より任命されましたので、ここでご挨拶をいただきたいと思っております。よろしく申し上げます。

○**齋藤委員** おはようございます。

今回教育委員になりました、齋藤です。皆さんといろいろと子ども目線でしっかり頑張っていきたいと思っております。どうぞよろしく申し上げます。

○**教育長** よろしく申し上げます。

それでは議事に入ります。本日は報告事項等2件、その他が3件でございます。それでは報告事項等に入ります。

報告事項等1、「葛飾区立東金町小学校改築基本構想・基本計画（案）について」説明をお願いいたします。

学校施設整備担当課長。

○**学校施設整備担当課長** それでは「葛飾区立東金町小学校改築基本構想・基本計画（案）について」ご報告いたします。

葛飾区立東金町小学校につきましては、平成27年5月に学校関係者や学区の自治町会長の方々と構成する学校改築懇談会を設置し、改築に向けた検討を行ってまいりました。

このたび、改築に向けた基本的な方針などを示した「東金町小学校改築基本構想・基本計画（案）」をとりまとめましたので、ご報告するものでございます。

添付してございます別紙の基本構想・基本計画（案）をごらんください。この基本構想・基本計画（案）は大きく五つの項目に分けて構成しております。一番目の大きな項目である「敷地条件」につきましては、1ページから14ページにかけて、東金町小学校の敷地概要、学区、既存校舎の概要、既存の樹木やモニュメント等の状況などを八つの項目に分けて、東金町小学校の現況を記載してございます。

ページをおめくりいただき、15ページをごらんください。こちらは2番目の大きな項目、「基本構想」となっております。15ページでは東金町小学校の教育目標と特色ある教育活動を、東金町小学校の特徴として記載しております。1枚おめくりいただき、16、17ページをごらんください。ここでは、改築する学校の施設整備の基本的な考え方を記載しております。

「多機能で柔軟な学校づくりをめざします」の項目では、教育環境を向上させるために、普通教室は74平米を確保し、クラス全体での発表やグループ学習などさまざまな形態の学習に対応できる機能を整えていくこと。特別支援学級や特別支援教室では落ちついた環境で学習できるように配慮すること。特別教室の多目的化を図り、特別教室の使用頻度を高めるなど、

変化する教育内容や教育方法に弾力的な対応ができるような各室の整備を行っていくことを記載しております。

「快適で居心地の良い学校づくりをめざします」では、「学びの場」であるとともに、「生活の場」であることにも十分配慮することや自然採光や通風を確保し、快適で居心地のよい施設としていくことなどを記載しております。

「安全・安心な学校づくりをめざします」では、防災拠点としての機能強化を図ることや、災害時緊急医療救護所となっていることから、災害時を考慮した諸室配置を行っていくこと。ユニバーサルデザインを取り入れた安心して利用できる施設整備を行っていくことなど、防災・防犯面の機能を高めることを記載しております。

「地域に開かれた学校づくりをめざします」では、学校施設を学校が利用しないときに地域開放をすることを念頭に置き、地域開放時の使用に考慮した各室の配置や動線の工夫をしていくことなどを記載しております。

「維持管理に配慮した簡素で効率的な学校づくりをめざします」では、施設の修繕や設備の更新、点検・保守、清掃などの作業が容易にできる建物となるよう建設後の維持管理に配慮をした学校施設としていくことを記載しております。

ページを2枚おめくりいただき、19ページをごらんください。こちらは三つ目の大きな項目となる「基本計画」としてしております。19ページでは、改築概要として学校に整備する諸室や施設規模を記載しております。(1)の予定諸室でございます。

東金町小学校は新宿六丁目地区の大規模集合住宅開発に伴う児童数の急増に対応するため、改築を計画しています。新宿六丁目地区の住居への入居が始まったため、今年度改めて将来の学級数の推計を行った結果、平成33年度は9学級、平成52年度は18学級になるとの推計結果となりました。そのため、東金町小学校は現在各学年1学級の6学級の学校規模ではございますけれども、改築後の普通教室は18室として整備することといたしました。特別支援教室につきましては、現在の設置数と同じく、特別支援学級を5室、「アイリスルーム」の名称で設置している特別支援教室を1室整備することとしています。その他、記載の特別教室や管理諸室などのほか、併設施設としてわくわくチャレンジ広場室や学童保育室など各諸室の整備を予定しています。

(2)の計画施設の予定規模につきましては、標準的な学校規模でお示した小学校18学級で延べ床面積8,000平米未満を基準にいたしまして、特別支援学級分の面積450平米を加えた8,450平米未満の5階建て鉄筋コンクリートづくりとすることとしております。

1ページをおめくりいただき、A3横の21、22ページをごらんください。ここでは校舎の配置検討について記載をしております。改築後の校舎の配置につきましては、A案としてプールと屋内運動場、校舎の西側部分を先に解体し、既存校舎の北側と東側を利用して学校運

営を行いながら、敷地の西側から北側にかけて改築後の校舎を配置するもの。B案としてプールを先に解体し、敷地南側に改築後の校舎を設置するもの。C案として敷地南に仮設校舎を設置し、敷地北側に改築後の校舎を設置するものの三つの案を比較して、検討を行いました。

この三つの案の中から、改築後の校舎及び校庭への日当たりがよいこと。校庭の形状がよくトラックが一番大きくとれること。仮設校舎の設置がないため、工事期間中に使用できる校庭面積が最も広いことなどから、改築後の配置案としましては、A案を採用することといたしました。

1枚おめくりいただき、A3横の23、24ページをごらんください。こちらはゾーニング案として、改築後の校舎内に配置する諸室の大まかな計画案を示しています。1階には特別支援学級と特別支援教室、職員室や校長室、保健室などの管理諸室、ランチルームにもなる多目的室のほか、学童保育クラブやわくわくチャレンジ広場などを計画しております。2階には屋内運動場のほか、校庭側に普通教室、北側に特別教室を、3階も2階同様に校庭側に普通教室、北側に特別教室を計画しております。4階には特別教室を、5階にはプールを配置する計画としております。

ページをおめくりいただき、25ページをごらんください。こちらは大きな項目Ⅳの「参考スケジュール」となっております。こちらの参考スケジュールは先ほどご説明したA案の配置案をもとに現時点で想定しているスケジュールを参考として記載をしているものです。現時点でのスケジュールでは、29年度から30年度にかけて設計業務を行い、30年度に工事期間中使用する際に必要となる既存校舎への改修工事と一部校舎や屋内運動場などの解体工事に着手、31年度から32年度にかけて改築工事を行い、32年度末に竣工し、33年度から新校舎での学校運営を開始するスケジュールを想定しております。

ページをおめくりいただき、27ページをごらんください。大きな項目Ⅴの「検討体制」となっております。ここでは、基本構想、基本計画案をまとめるための改築懇談会の検討結果などを記載しております。27、28ページには、東金町小学校の改築懇談会の運営要綱を、29ページには東金町小学校の各懇談会の開催日や各会の検討内容を記載しております。

恐れ入りますが、一番最初の資料にお戻りください。2の今後の予定でございます。この基本構想・基本計画（案）につきましては、学校周辺の方を対象とした計画案の地域説明会を開催した後、「基本構想・基本計画」として策定していく予定でございます。また、その後の予定につきましても、先ほどの参考スケジュールと重複するものもございりますが、主な項目をこちらに記載しております。

葛飾区立東金町小学校改築基本構想・基本計画（案）についてのご報告は以上でございます。よろしくお願いたします。

○教育長 それでは、ただいまの説明についてご質問ございましたら、お願いいたします。
齋藤委員。

○齋藤委員 7項目あるのですが、順不同で伺いますのでよろしくお願いします。

ここは特別支援学級があるところですね。昔、シャッター事故があつて死亡した事件がありましたね。全国でも何カ所かであつたのですけれども、そのときに葛飾区はいち早くシャッターが下までおりて挟まらないような工夫を、特別支援学級がある学校にはシャッターの改修をしたのですね。何か挟まっても、下まで降りずに、多少、ある程度隙間があくシャッターにかえているはずなのです。

ですから、特別支援学級がある学校だとすると、そのシャッターに対する改修がされているはずなので、全体の改修のときにも、やはり安全性ということを見ると、その辺を踏襲した考え方でやるのかどうか。やっているのかもしれませんが、その辺はどうなっているのでしょうか。

○教育長 学校施設整備担当課長。

○学校施設整備担当課長 シャッターの事故があつたというところで、実際にもうそういったように区として対応しているということになれば、当然改築後の学校も同じような形で対応していくようなことを想定しています。

○齋藤委員 対応しているのですね。

○学校施設整備担当課長 シャッターのほうもということです。

○齋藤委員 対応していればいいです。

それから次に体育館の空調なのですけれども、中青戸小学校が実施設計を変えて空調を導入した際に、予算が厳しいので、地熱化の空調に変えて、それなら何とかやれるのではないかとということで、前例がなかったのですが、防災上の避難場所にもなるし、卒業式や入学式とかをやるところで、地域も使う場所だから、空調は必要ではないかということで入れてもらったのですね。

私もそのときにいろいろな体育館を見たけれども、ナショナルセンターに行ったら体育館に全部空調が入っていました。昔、体育館は空調は要らないのだと、みんな運動するのだから要らないと言っていましたけれども、ナショナルセンターも入っていますし、やはりそういう時代だと僕は思っています。

ですから、今回入るのはいいのですけれども、本格的な空調なのか、それともやはり地熱利用で予算を抑えたものなのか。どんな空調を考えているのでしょうか。

○教育長 学校施設整備担当課長。

○学校施設整備担当課長 今お話がありました中青戸小学校は、地熱利用の部分を体育館に空調として利用している部分はございますけれども、少しランニングコストがかかるという

面もありますので、ガスか電気で通常の空調という形で今のところ想定はしてございます。地熱ではない形のガスか、電気で空調を入れるということです。

○教育長 齋藤委員。

○齋藤委員 そうすると、それはやはり予算がふえる話になるのですか。前はそれが予算かかるからだめだと言われたのだけれども。

○教育長 学校施設課長。

○学校施設課長 一般的には地熱利用をしたときには再利用可能エネルギーを使うということでランニングコストのほうにいい影響があるかどうかということになるかと思うのですけれども、ただ、そのイニシャルコスト、当初の設置時に関しては、そういった地熱利用などは工事費はかかる場合が多いようです。今回はその辺のことも考慮して、イニシャルコスト的にも安価なものということをこれからは、多分、検討していくものと考えています。

○齋藤委員 そうですね。いろいろな方式をやれば比較できるし、前やっているから比較もできますね。それはわかりました。

それから、三つ目。普通教室で74平米確保すると言っていましたけれども、基準が変わって、そうなっているのか。それとも基準以上にふやしたということなのですか。

○教育長 学校施設整備担当課長。

○学校施設整備担当課長 それは基準というか、設置の際の目安として74平米が好ましいということが出ていますので、それに合わせた形で整備をするということでございます。

○齋藤委員 では、体育館も同じですか。同じように、昔と違って広げるという話でしたね。

○教育長 学校施設整備担当課長。

○学校施設整備担当課長 体育館も児童数、生徒数に応じて、必要な面積というものの基準がございまして。当然改築後の体育館というのは、既存よりは大きくなるという想定ではありますけれども、ここは大きくなりますけれども、学校の敷地の大きさによっては今後の改築のところでは、同じような程度の体育館になることもあり得るかなとは思っております。

○齋藤委員 そうではなくて、ここの体育館は、そのいわゆる望ましいという基準の体育館になるかという質問です。

○教育長 学校施設整備担当課長。

○学校施設整備担当課長 通常補助金だけの話でいってしまいますと、今いるお子さんの大きさという部分がまず前提となっております。

今の6学級しかない東金町小学校が前提になるのですけれども、想定としては、18学級ということを考えていますので、その人数に合わせた形では整備はしたいと思っておりますが、必ずその人数の基準での面積の体育館がとれるかというのは、少しここも検討が要るかなと。18学級というとかかなり大きな体育館になってしまいますので、その基準の面積の計算があ

るのですけれども、それにはちょっといくかいかないか、ぎりぎりかなと今のところは想定しています。

○齋藤委員 今よりは大きくなる。

○学校施設整備担当課長 今よりは大きくなるということです。

○齋藤委員 それから、さっき施設をつくる配置図のA案、B案、C案がありましたけれども、仮校舎をつくらないでやるということは、予算上もコスト的には安くなるということなのですか。

○教育長 学校施設整備担当課長。

○学校施設整備担当課長 コストにつきましても、プレハブ、仮設があるとやはり通常の改築より4億円か5億円は高くなってしまいますので、このA、B、Cの大まかな概算でのコストの比較でいきますと、A案に比べてやはりC案は5億円ぐらい高いと。また、A案とB案ですと、1億5,000万円ぐらいB案のほうが若干安くは当然なっているのですけれども、でき上がりのことも考えてA案でいきたいというところで比較をしたというところになっています。

○教育長 齋藤委員。

○齋藤委員 それから、間仕切りが柔軟だということがありましたけれども、これは普通教室も特別教室も全てそうなのですか。

○教育長 学校施設整備担当課長。

○学校施設整備担当課長 普通教室のよくある黒板等がある前と後ろというのはある程度耐震壁といって、壁も躯体として必要な荷重がかかっても、ここの壁も柱と一緒に支えている部分の壁になるかなと思っているのですが、どちらかというところ、例えば、中青戸もそうですけれども、廊下側を大きく開く、開かないという部分と、特別教室とか多目的室というのを設けるのですけれども、多目的室は今のところ想定が普通教室の3教室分ぐらいの概算であるので、そういうところはやはり間仕切りが柔軟に動かせるような形で、普通教室としても3部屋としても使えますし、例えば大きく二つに割って使えるという形でも部屋はとれるという想定で、間仕切りが自由にということになってございます。

○教育長 齋藤委員。

○齋藤委員 多目的室ですね。昔、地方にある他の自治体の学校を視察したときに、普通教室が廊下側ではなくて、教室ごとに間仕切りが動くようになっていて、それで学年の集会をやるときは、それを外して一遍にやってしまうというところがあったのですが、そういうことではないということですね。

○教育長 学校施設整備担当課長。

○学校施設整備担当課長 詳細は設計の中になってしまうのですけれども、今、申し上げた

耐震壁でなければ、多少のフレキシブルな壁というのは、今委員がおっしゃっていただいたことは可能かと思います。ここのところはやはり設計を進める中で、躯体の耐震性を保ちながらどの程度、壁をフレキシブルにできるかというところの話になってくるかと思います。

○教育長 齋藤委員。

○齋藤委員 わかりました。

それから、ユニバーサルデザインということなのですが、5階建てだから、エレベーターを設置するのでしょうか、そのほかに具体的に幾つかポイントになるようなことがありましたら、お願いします。

○教育長 学校施設整備担当課長。

○学校施設整備担当課長 今お話しいただいたエレベーターは、1階から5階までは当然つきます。現在、既存の学校は大体階段で、昇降口というか、上るような形になっているのですけれども、新しいところはフラットな形で昇降口まで行けるというようなことも想定してございます。また、すのこを敷いて、廊下との段差もある部分が、今の既存の校舎では多いのですけれども、そういったところも段差をなくすような形でということなんです。

それから、校内についても中青戸小の事例でいうと手すりや、点字ブロック等を階段のところにつけたりということも、全てユニバーサルという視点でやっていきたいとは思っています。

また、色の配置なども教室の案内とかぶった色で見にくいことがないような形で、区のほうで色のユニバーサルデザインの指針というものが出ていますので、そういったことに基づいて、校内も部屋の案内というところができるかなとは考えております。

○教育長 齋藤委員。

○齋藤委員 例えば階段のところの手すりが右側だけとかではなくて、両側についていると、階段の上り下りの際に便利だという話もあったのですけれども、つける予定はありますか、片方だけですか。

○教育長 学校施設整備担当課長。

○学校施設整備担当課長 中青戸小がどちらだったかは記憶があいまいですけれども、できれば両方つけたいと思っております。ただ階段の幅の限りもありますので、場合によっては片方だけになる可能性もあるかと思いますが、できれば両方、おっしゃっているように外と内という言い方が合っているかどうかかわからないですけれども、つけたいとは思ってございます。

○教育長 齋藤委員。

○齋藤委員 最悪の場合、エレベーターを使用することで対応できるかもしれませんが、階段の手すりについても今後の検討課題になると思います。

それから、中青戸小が使っていて不便になったことがあるそうです。学校の敷地と外の道路・歩道との境の塀が柵になっていて、下があいているらしいです。そうすると、例えばテニスなどで、そこからボールが出ていってしまうということです。地域の方も使ったときにも困っているというので、その対応を考えなくてはいけない状況となっています。柵の下にネットなどを張るなどが検討課題になっているそうです。

ボール遊びするときにボールが学校の境界の柵の下の隙間から出ないようにボールをコントロールして打つなんて難しいですから、ボールが外に出ないように柵の下の隙間を作らないようなハード面での工夫というのをしなくてはいけないと思います。塀のつくり方というはどうなっていますか。

○教育長 学校施設整備担当課長。

○学校施設整備担当課長 塀のつくり方は、特段こういった塀をつくろうという基準は今のところないです。そのときどきのこれも設計の業者からの提案が多いのですが、こういった形で周りを囲いましょうというような提案の中で、外構工事というふうに呼んでいますけれども、その中で設置をしていくような形になりますので、周りの塀の柵については、特段今のところは下が必ずあいているとか、必ず閉めるとかというような決まりはないです。

○教育長 齋藤委員。

○齋藤委員 マンションなどは、囲いをするためにデザイン性を一番に考えて、下の空いている柵を作っていたりしているところもあるのだけれども、学校の校庭はボール遊びをするところでもあるし、地域でも使うところだから、デザイン性というよりも機能性のほうを優先してもらいたいですね。だから、その辺を設計するときは、ちょっと考えてもらいたいと思います。

それから、西側校舎のA案ですけれども、説明のときに南側の光が当たる校舎がいいと言っているのだけれども、その西側に面した家の方は、日当たりが悪くなってしまいますね。そういう苦情はないのですか。

○教育長 学校施設整備担当課長。

○学校施設整備担当課長 若干朝日が当たりにくくなるかと思いますが、実際、太陽が上ってくると、もう校舎は特に影響はないです。説明会のために2回か3回各家を個別に回って、今こういった形で計画していますというお話はしているのですが、特段、今のところは西側の方からこれでは困るというお話は来ていません。ただ、また説明会を開催しますので、その際に、もしかするとちょっと若干危険だったりとか、建物の圧迫感があるかなというお話があるかもしれませんが、そここのところは、粘り強くという言い方かどうか分かりませんが、きちんと説明をして、ご理解をいただくような形しかないかと思

っております。

○教育長 齋藤委員。

○齋藤委員 質問事項はそれだけです。

○教育長 そのほかいかがでしょうか。

塚本委員。

○塚本委員 基本的には先ほどの学校施設整備担当課長のご提案、それと過去の経緯は十分理解しております。特に私が気になったところが、ページ数で参りますと、16ページ、「安全・安心な学校づくりをめざします」とございます。特にこの今の時代の趨勢、近年とみに言われております南海トラフ、それから東南海、首都直下型地震ということでは、学校の使命というのはある程度防災拠点であることと、医療救護所、地域の方々にとっての避難所の拠点になるということでございます。その中で十分な備蓄というものも既に記載してございますので、配慮と同時に先ほど体育館でのいわゆる高齢者、あるいは災害弱者と呼ばれる方が多く、その避難なさることもございますので、その辺のごしんしゃくを十分お願いしたいのが1点。

それから「地域に開かれた学校づくりをめざします」というので、特に開放型の学校の規模に持っていきたいという、地域に開放することはいいのですが、反面それは、防犯という部分もそのソフトな面なのでしょうけれども、十分しんしゃくしながらやっていただきたいのが2点目です。

特に過去の経緯で、今、齋藤委員がおっしゃっていただきましたように、高さの問題、日照の問題と恐らく今までの後半のほうに検討スケジュール、参考スケジュールがございますので、これをもって特にこれから開発とともに児童数が急増されることが予測されます。

ただ、1点気になりましたのが、騒音ですとかボールの問題。最近ではニュースによく出ていますが、保育所が近隣の住民の防音とかそういった部分で設置を断念せざるを得なかったという事例もございますので、まだまだ検討のこれからの詰めの段階、実施設計、設計図面の起こしのときに十分な話し合いをお願いしたい。要望だけでございます。以上です。

○教育長 よろしいですか。そのほかいかがでしょうか。

では、日高委員。

○日高委員 説明ありがとうございます。すばらしいものができるなど、大変大きな期待をしております。同時に教室の広さですが、74平米というのはすごいですね。よくこれを確保できたなと思います。実際に使ってみますと、現状の学校はやはり狭いのです。広い空間がこれだけとれるというのは魅力で、大変環境をうまく配慮していただいていると思います。これが1点。

それからもう1点期待できるところは、やはりこの機能性を高めるためのメディアセンタ

一です。これは配置等、よく考慮をしていただき、完成していただくと、ありがたいと思います。メディアセンター機能というのは、非常に子どもたちが多くかかわってまいりますので、そういう意味でも大事につくり上げていただきたいと思います。

放課後の調べ学習であったり、あるいは子どもの居場所としても、ここの活用を図ろうということですから、この辺のすみ分けがうまくできるといいのではないかと思います。

また、自然採光、風通しのいいという言葉ですが、何か方策を立てないとならないですね。そういうご工夫をどうされていくのかと、大変興味を持っております。もしわかれば、採光を確保するために、どういうシステムをお使いになるのか教えていただけませんか。

今、いろいろなシステムができていますのだそうですね。ミラー活用とか、反射板活用というのは、非常に有効なのだそうです。ただし、物によっては危険というものもありますから、ぜひそういうあたりを今後の見通しとしてお聞かせいただければありがたいと思います。

それから、室内運動場の冷暖房設備は、本当にありがたいと思います。卒業式にゴーツとすごい音を出して暖房をたきますと、スピーチもよく聞き取れない。子どものせつかくいい呼びかけも、聞き取れない。ですから、これからの学校づくりには欠かせない設備なのかもしれません。

もちろん、甘やかせるわけではないのです。体育をやるときに使用することはありません。

それから、もう1点、備蓄倉庫や非常電源。それから、マンホールトイレを学校に設置するという。この発想は大変ありがたいと思います。これは地域にアピールいただいたほうがいいと思います。緊急時に活用していくのですから。東金町小学校には、こういうものが、設置されています。緊急に対応できますと、しっかり周知していただきたいと思います。

そして、最後に1点だけ質問をさせていただきます。地域に開かれた学校となると、施設開放も地域にすることです。会議室などもたくさんありますから。

ただ、もし、何か事が生じた場合、整備が悪かったのではないかとということにもなります。

夜間開放の場合の管理棟など、入ってはならないところに人が入ったり、通り抜けすることによって、事故が発生するということがあり得る。ある区では、夜間は管理棟には入室できないようなシステムを持っているところもあります。ですから、そういうシステムを構築されるのかどうなのか、教えていただきたいと思います。

○教育長 学校施設整備担当課長。

○学校施設整備担当課長 初めの自然採光につきましては、この間ちょっとお示した小松中学校で、例えば校舎の真ん中にガラス張りの空洞という言い方がどうかかわからないですが、つくっております。また、中青戸小学校も全部ではないですけれども、上のほうの何階かで同じような形で、ガラスで囲って光をとっているような部分もあります。

今、扉のような形で設置するようなものもありますし、階段を利用して風通しをとったり

というのもいろいろあるようなので、そういったところをまた設計の中で事業者のほうからの提案を受けながら、区としても自然採光をとっていきたいと伝えながら、設計をしていきたいと思っています。

それから、夜間開放等の施設開放についてなのですが、これは今の学校というのは余り前提としてないというような形になっていまして、正面の昇降口から入って大体主事室にお声がけをして、各部屋を借りて活動していただいているという状態はあるのですが、その場合、例えば右に行ったり左に行ったり2階に行ったりいろいろな部分で貸し出しで活用していただいた事例はございます。

今回、建てかえるときは、できればメインとして貸す部屋というのはなるべく集合するような形で、ほかのところに寄らなくてもそこに入れるような形をとりたいと思っています。

また、防犯面も当然担保して、機械警備等を入れながら、例えば中青戸小学校の体育館は外から直接入れるようなしつらえにもなっていますので、そうすると体育館部分だけ貸し出しをして、ほかの管理棟には入らないというようなしつらえができますので、そういったことも前提に、動線も考えながら、セキュリティ面も高めて解放していくというような設計をしていきたいと思っています。

○日高委員 ありがとうございます。

○教育長 そのほかいかがでしょうか。

齋藤委員。

○齋藤委員 今の考え方は非常に大事なので、ぜひこれからの学校についても同じ考えでやってもらいたいと思います。

それから、小松中の話が出たので、ちょっと気がついたのですが、確かあそこはプロポーザルでやったと思うのですが。違いましたか？

○教育長 学校施設整備担当課長。

○学校施設整備担当課長 設計はプロポーザルです。

○教育長 齋藤委員。

○齋藤委員 プロポーザルのいいところと入札のいいところ、よくないところはそれぞれありますが、プロポーザルのいいところというのは、最先端の設計屋さんの考え方を職員とか担当の人が見て、自分たちの資質向上にもなり、物事をこれから判断する上で、非常に有益なことだと思っています。ですから、葛飾区でこれから改築を担当するときに、その民間のノウハウをそこで吸収もできるということで、プロポーザル方式が予算のバランスもあるので、事業を進めていく中で、葛飾区の教育委員会の能力を高めていくということにつながるので、小松中の話を聞いたときには、いい方向にかじを切っているなと感じました。

これからは、入札で行くのか、プロポーザルで行くのか、その都度いろいろな対応があると思うのですけれども、現在はどのように考えているのかだけ、教えてもらえればと思います。

○教育長 学校施設整備担当課長。

○学校施設整備担当課長 学校の設計につきましては、予算を教育委員会でとって、施行管理は営繕課に執行委任という形であちらの技術職の職員が管理をするような形で連携をしながら進めてございます。今お話があった小松中学校から設計にプロポーザル方式というのを入れて、業者の提案を受けた形での設計業務を取り組んでもらう。その後今、ちょうど選定中なのですが、本田中学校につきましてもプロポーザルで臨んでございまして、やはり学校につきましては、施設規模が区の施設としては大変大きなものになりますし、やはり今お話があったように技術とか、提案の部分でも本当に新しいというものが出てきておりますので、その点から当面はプロポーザルで学校改築というのは進めていくのかなとは思ってございます。

ただ、決定ではないのですが、最終的には営繕課とも調整しながら、今のところは学校改築についてはプロポーザルで設計業者を選んでいくというような方向性にはなっております。

○齋藤委員 ありがとうございます。

○教育長 そのほかいかがでしょうか。

天宮委員。

○天宮委員 感想だけいいですか。お答えは結構です。このスケジュールを見ていますと大体2020年、実際には2021年に新校舎に引っ越しということなのですが、当然金町の向こう側、北口ですね。新宿のタワーマンションができて、いろいろと新しい建物ができています。その中で学校というのはやはり町の雰囲気大きく影響を与えるものですので、これはきっとそういう大きなきれいなものができれば、東金町の自治会の方や地域の方、皆さん誇りに思うエリアになってくれるのではないかと、期待しております。

○教育長 そのほか、いかがでしょうか。

それでは、引き続き、報告事項等2、「平成29年『はたちのつどい』の開催結果について」をお願いいたします。

地域教育課長。

○地域教育課長 それでは、お手元に配付してございます資料、「平成29年『はたちのつどい』の開催結果について」に基づきまして、ご説明を申し上げます。

初めにこのたびの開催に当たりましては、教育長並びに教育委員の皆様方には、ご多忙の中ご臨席を賜り、御礼を申し上げます。本事業でございますが、新たに成人の仲間入りをし

た青年の新しい門出を祝福することを目的といたしまして、昭和26年から開催をしております。

1の日時でございます。去る1月9日、月曜日・祝日に開催をいたしました。式典・記念コンサートは昨年1月の開催から2部制といたしまして、今回は2回目でございます。午前の部は午前10時30分から、午後の部は午後1時から、おのおの1時間開催いたしました。午前の部につきましては、郵便番号125の区域の方、午後の部には124の区域の方をご案内いたしました。また、着つけ直しコーナーやドリンクコーナーなどの各コーナーは、午前10時30分から午後3時まで設置をいたしました。

2の会場でございます。かつしかシンフォニーヒルズで開催いたしました、式典・コンサート会場はモーツァルトホール、映像中継会場はアイリスホール、各コーナーにつきましては、別館を使用いたしました。

3の対象者は平成8年4月2日から平成9年4月1日の間に生まれ、本区に住民登録をしている方4,355人で、前年と比較いたしまして300人増加いたしました。

4の内容でございます。(1)の式典・記念コンサートにつきましては、成人式を迎えた葛飾ジュニアリーダークラブ4人に、新成人司会者としてのご協力を得るとともに記載のアからオの内容で実施をいたしました。(2)の各コーナーにつきましては、記載のアからエのコーナーを設置いたしましたところでございます。裏面をごらんください。

5の運営体制でございます。(1)の従事者数は172人、青少年委員及び葛飾ジュニアリーダークラブの皆様のお力添えをいただきました。このほか(2)の警備協力といたしまして、葛飾警察署から46人のご協力をいただきました。

6の来場者は約2,500人で、内訳は(2)に記載のとおりでございます。ご説明は以上でございます。よろしくお申し上げます。

○**教育長** ありがとうございます。何か質問がございましたらお願いします。

齋藤委員。

○**齋藤委員** ささいなことで申しわけないのですが、「民間委託警備」というのは、これは入札で決めるのですか。

○**教育長** 地域教育課長。

○**地域教育課長** 入札でございます。

○**教育長** そのほかいかがでしょうか。

天宮委員。

○**天宮委員** ことしで3回目ぐらい出席させていただいたのですが、ほかの区では有名人を連れてきて、講演を行ったりとかしておりますね。逆に葛飾区の場合は葛飾総合高校の吹奏楽部ということなので、まさに年下から祝福されるという。かえってすがすがしいの

ではないかなと感じました。誰か立派な人を呼んでお話を聞かせるよりも、そういうふうに祝福されたほうが、参加した成人も気持ちよく終われる。無駄に時間をとらないという形で、このやり方はいいのではないかと感じております。

○教育長 ご意見ですね。

塚本委員。

○塚本委員 今天宮委員もおっしゃっていたのですが、2部制に分けて2年目ということ。会場外で300名ほどいたということですね。式場内の雰囲気としては粛々とした落ちついた部分で、特に暗転になって予鈴が鳴る部分で、すばらしい吹奏楽部の演奏が始まりますと、ちょっとやんちゃな声でも出そうかなという新成人の方々を、その風体で判断をしてはいけないのでしょうか、粛々と始まったというのは非常に好印象を持ちました。特に葛飾総合高校吹奏楽部のそういったソフトを活用しながら触れ合いの場というのを定着させていくのは、非常にいいことだと思います。特に後段のほうはニュースなどで、ゲストとして、渡部香生子さんがたまたまインタビューを受けた。幾つかのアスリートがことし二十歳になったと。世代というか、その中の1こまにもちゃんと報道が入っていて、これは葛飾にとってはやはりいいことだなという印象です。次年度につなげていただければと思います。お答えは結構です。

○教育長 そのほかいかがでしょうか。よろしいですか。

大里委員。

○大里委員 高校の吹奏楽部が演奏するというので、二十歳の方たちも自分より年下の人の前では、ちょっと立派なところを見せなければいけないというのもあって、かえっていいのではないかと思います。ことしはインフルエンザにかかってしまいまして、出席できなかったのが、来年を楽しみにしております。以上です。

○教育長 そのほかいかがでしょうか。

日高委員。

○日高委員 昨年度と今年度、参加させていただいて、私は今の二十歳の子どもたちは態度がいいと思いました。もちろん、全部ではありませんよ。

最初始まる前に騒いでいるというか、いい音を出して、警笛ではないけれども、そういう若者もいました。要するに目立ちたいのですね。そういう状態でしたが、最後はスーッと素直に外に出ていかれた。その後は静粛な雰囲気でした。

やはりあのすばらしい葛飾総合高校の演奏を聞いたら、どんな人でも自然にあのようになってしまうと私は思うのです。すばらしかった。昨年度もそうでしたが、今年度もすばらしい演奏でした。

もし、余りにも成人のつどいの二十歳の人たちが騒いで手がつけられなくなったらどうす

ればいいか。小学生を連れてきたらいいですよ。ある区で実際にやりましたから。

「お兄さん、お姉さん、今日は成人おめでとうございます」と小学生が言うのです。そうすると、みなさん、立派な大人に近い感じになってしまいます。

教育は私たちに戻ってくるのです。大人に熟するそこまでの指導が不十分であったと反省すべきでありましょうけれども、私は葛飾の「はたちのつどい」はすばらしかったと思いました。

それから、昨年度も申し上げましたけれども、区長さんの挨拶が、短くて本当に明快ですね。それだから、きちんと聞くのですね。そういう晴れの姿を見ることができて、大成功に終えた、はたちのつどいだったと私は思いました。ありがとうございました。

○教育長 そのほかいかがでしょうか。よろしいですか。

それでは、報告事項等2を終了いたします。ここで各委員からそのほか何かご意見等ありましたら、お願いします。よろしいですか。

それでは、続きまして、「その他」の事項に入ります。庶務課長、一括して説明をお願いします。

庶務課長。

○庶務課長 それでは、「その他」3件説明させていただきます。まず1の「資料配付」でございます。

(1)の教育委員会所管施設の年末年始の利用状況についての資料をごらんください。まず、1の図書館でございます。(1)「中央図書館」でございますが、合計欄をごらんください。本年の入館者数が合計6日間ですけれども、1万5,803人。前年の入館者数1万5,771人に比べ、プラス32人となっております。続きまして、(2)の「立石図書館」の合計欄をごらんください。本年が6,279人、前年の入館者数が6,661人、マイナス382人となっております。図書館については大幅な変動はございませんでした。

続きまして、2の「郷土と天文の博物館」、1月2日及び3日でございます。観覧者数、本年が307人、前年の観覧者数が207人でプラス100人と大幅に増加してございます。要因といたしましては、直接の要因かどうかはわかりませんが、例年特別展示、かるた展示をしているところを今年度は「セルロイドの町かつしか」という展示を実施したところでございます。

続きまして、裏面をごらんください。「スポーツ施設」でございます。こちら合計欄をごらんください。団体利用、本年が725団体、前年の663団体に比べてプラス62団体、7,701人。前年が8,048人でしたので、こちらはマイナス347人。個人利用につきましては、本年7,807人、昨年は4,563人でプラス3,244人となっております。

こちらが大幅に減った理由、大幅にふえた理由でございますけれども、昨年度はエイトホ

ール温水プールで改修工事がありましたために、大幅に個人利用が減りました。今年度はそうした状況ではなく、通常どおり使っていただいたため、個人利用客が大幅にふえたのだと考えてございます。

続きまして、4の「日光林間学園」でございます。こちらについては、本年が利用者数57部屋、198人、前年の利用者数が66部屋、269人でしたので、マイナス9部屋、マイナス71人となっております。今年度は20名ほどのキャンセルが急に出たのが一つの要因ではないかと考えているところでございます。

続きまして、2の「出席依頼」について説明させていただきます。本日は1件でございます。1月21日、かつしかシンフォニーヒルズで行われます「小学校管楽器発表会」、こちらは天宮委員のご出席をお願いいたします。

次に3の次回以降の教育委員会の予定でございます。記載のとおりでございますが、前回までご案内していたのに比べ、2月6日月曜の開催時間を午前10時から11時に変更しているところでございます。説明は以上でございます。よろしくをお願いいたします。

○教育長 よろしいでしょうか。

それでは、これもちまして、平成29年教育委員会第1回定例会を終了いたします。ありがとうございました。

閉会時刻10時50分